

第2回

利友会環境アクション表彰 結果発表

戸田建設株式会社 環境エネルギー委員会

受賞作品決定

2023 年度利友会環境アクション表彰大賞・準大賞は以下に決定しました。

【大賞】

持続可能な未来へ、私たちができること

中幸建設有限会社 中山恵美賀

クリーンエネルギーの活用で CO2 削減に貢献他

向井建設株式会社 山崎 孝一 三浦 恒麗
大神 光司 原 尚志

【準大賞】

脱炭素社会へ向けた取り組み

三和シャッター工業株式会社 田形 涼

環境に配慮した配電線工事

株式会社関電工 半藤 康大

解体工事業の環境経営の実践

ミネ工業株式会社 田中斗希子

環境配慮型燃料の使用について

株式会社加藤建設工業 天沼 紀昌

応募概要

各支店の利友会事務局を通して、利友会加盟企業に応募の依頼をお願いしました。

結果として 2023 年度の応募は 108 作品となりました。支店別の内訳は以下になりました。

	東京	首都土	千葉	関東	横浜	大阪	名古屋	札幌	東北	広島	四国	九州	計
応募数	29	5	1	19	6	5	7	7	10	12	3	4	108

お知らせ

来年度も開催予定です。4 月初旬から募集しますので環境配慮型燃料の利用だけでなく多方面で環境活動を引き続きよろしくごお願い致します。

事務局 イノベーション推進統轄部 環境ソリューション部 矢吹 慎悟

mail:shingo.yabuki@toda.co.jp

大賞

- 企業名 中幸建設有限会社 (所属 名古屋支店)
- 担当者 中山 恵美賀
- テーマ 持続可能な未来へ私たちができること
- 活動内容



田植え風景

会社のある飛島村(名古屋港湾そば)にて、未来の子どもたちに持続可能な環境を残すことを目的に8年前より水を浄化するマコモの栽培を自社の隣接する水田にて自然栽培で始めた。田植えは昔ながらの野良着姿で手植え。マコモの水田には水カマキリ、ドジョウ、ヤゴが生息し、失われつつある生物の保護になり、子どもたちにとって何よりの体験になっている。また苗を配布し家庭や企業でバケツ栽培をしてもらっている。農産物のマコモタケ収穫だけでなく、葉を乾燥して注連縄(しめなわ)を作り、日本の伝統を伝えるワークショップの開催。本年度より学びの場として自然栽培農学校を開催。家庭や企業のベランダや庭先で出来るプランター栽培を中心に食育と環境意識とを高める活動を実践中。

現在、福祉施設の庭を障害者の方も車椅子で作業できるよう枕木を重ねた2M×4Mのレイズドベッド※を提案、施工に取り掛かり来年度は全国の施設の見本になるよう型を作る予定。

※レイズドベッド：露地に木の板などで土留めを立て、植栽スペースをつくったもの

- 活動の効果・結果

水辺の生き物が増え、水田の環境改善と参加者の意識改革につながった他県からの申し込みや問い合わせもあり環境だけではなく、地域の活性化に有効となる。



マコモタケ収穫



自然栽培農学校にて注連縄作り

大賞

- 企業名 向井建設(株) (所属 東京・関東支店・東北支店)
- 担当者 三浦 恒麗
- テーマ 持続可能な未来へ 私たちができること
- 活動内容

(1)新ユニホーム作成に当たり社内でのアンケートを集約し、SDGsを考慮した素材・デザインとした生地としてECOディアを採用。ECOディア原料はその約30%をサトウキビから砂糖を作る際の副産物としてできる「廃糖」を使用した植物由来ポリエステルである。全社員に1,376着を配布し、2023年4月より着用。

(2)環境配慮型燃料GTLや燃料添加剤K-S1を掘削工事に採用、環境負荷低減となった。

一例 DPL久喜宮代の作業所ではGTLを4,451L利用

お茶の水小学校・幼稚園改築工事ではGTLを1,059L利用 K-S1を22.12L利用

上記の活動でCO2排出削減は5.8t-CO2となった。

(3)環境基準を守る土壌改良材「ワトル」を共同研究提携企業としてメーカーと共に開発、適正な使用方法を追求した。「ワトル」とは製紙工場から発生するペーパースラッジ灰(PS灰)で、粒子表面には複雑な凹凸や空隙が多数見られる多孔質構造である。保水・消臭・化学物質吸着効果が期待でき、リサイクル材として、盛土に利用できる。上小山田非常口工事にて340tを使用



新ユニホーム



土質改良材「ワトル」

- 活動の効果・結果

環境配慮型燃料については他の作業所への積極的な展開を図る。

準大賞



- 企業名 三和シャッター工業(株) (所属 広島支店)
- 担当者 田形 涼
- テーマ 脱炭素社会へ向けた取り組み
- 活動内容

三和シャッター工業(株)の太田ドア工場では、2021年12月、物流棟の屋根に太陽光発電設備を設置した。パネルの総面積は約3,500㎡で、太田ドア工場で使用する電力の約14%をまかなう事ができる。

それにより年間で約300t-CO2のCO2排出量削減を見込んでおり、2021年度は4ヶ月間で約73t-CO2のCO2排出量削減に貢献した。

また事務所においては、照明器具をLED照明への切り替えや、空調設備の更新等に加えて、営業車のガソリン使用量の削減へ向けたエコカーへの切り替えを積極的に実施している。



太田ドア工場物流棟に設置した太陽光発電設備

活動の効果・結果

これらの取り組みの結果、太田ドア工場では2021年度のCO2排出量は、前年比△2.5%となった。基準年となる2019年度比では△6.5%、三和シャッター国内事業所全体では△2.3%となった。

準大賞



- 企業名 (株)関電工 (所属 東京支店)
- 担当者 半藤 康大
- テーマ 環境に配慮した配電線工事
- 活動内容

配電線工事の現場作業にて、工事車両による騒音、振動、排気ガスによる環境負荷を低減するため、架装部の動力源にバッテリーを用いた高所作業車の研究・開発を1991年から始め、2005年度より現場に導入した。高所作業時にバッテリーを使用することで、作業中の騒音・振動の低減、CO2発生量の削減を図った。また道路や私有地での工事において持ち込み車両数の低減の為、開発する車両は材料・工具を積載できる高所作業車として工事作業帯面積が縮小でき、交通渋滞の解消となった。

活動の効果・結果

架装部の動力源にバッテリーを用いた高所作業車を431台導入したことにより、従来のエンジン式の高所作業車に比べて、年間で1,069t-CO2のCO2排出削減となった。

また作業時の騒音は従来のエンジン式の75dbからバッテリー式では55dbと20dbの削減となった。

◆開発品の高所作業車



準大賞

- 企業名 ミネ工業株式会社 (所属 横浜支店)
- 担当者 田中 斗希子
- テーマ 解体工事業の環境経営の実践
- 活動内容

- ・ 解体工事の重機に環境配慮型燃料GTLを利用
- ・ エコアクション21への参画は10年以上前から
- ・ 横浜市が取り組んでいるY-SDGsのstandardを2021年3月に取得、Y-SDGs認証ミーティングに参加
- ・ かながわトラストみどり財団への募金 緑地保全支援
- ・ 熱中症対策として夏用ヘルメットを採用

活動の効果・結果

環境配慮型燃料のGTLを兵神装備横浜PMC新築工事作業所にて21,931L利用し、CO2削減は4.8t-CO2となった。
また様々な取り組みは社員の環境への意識向上につながった。



Y-SDGsミーティング参加

準大賞

- 企業名 (株)加藤建設工業 (所属 関東支店)
- 担当者 天沼 紀昌
- テーマ 環境配慮型燃料の使用について
- 活動内容

使用している10tonダンプ8台と8tonダンプ2台に11年前から燃料添加剤K-S1を使用している。

使用開始時より燃費を計測しており、平均で8%以上の燃費改善が認められる。

昨今の軽油高騰により、この燃費改善の効果は経済的なメリットにつながっている。

活動の効果・結果

K-S1を使用する前(平成23年度)は平均燃費は2.74km/LであったがK-S1利用後の平均は3.01km/Lとなる。

結果として燃費については8%以上の改善である。

年間軽油を100,000L利用するので、8%の燃費改善で20t-CO2/年のCO2排出削減になる。



K-S1添加状況



添加した10tonダンプ